

ひょうご

職親会だより

2020. 11 第45号

※兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会(職親会)は、精神障害者の就労を支援する事業主の会です。

【目次】

《報告①》 令和2年度兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会(職親会)総会…… P 1
(書面決議)

- 令和元年度事業・決算報告 …………… P 2
- 令和2年度事業・予算計画 …………… P 4

《報告②》〈第1回研修会〉就労支援システム「SPIS」セミナー(入門編)…… P 4

- 講演 就労支援ツール「SPIS」とは、どんなシステムか
一般社団法人 SPIS研究所 所長 橋倉 正氏

- 事例報告 「SPIS」を活用した就労定着支援への取り組み
医療法人社団 東峰会 就労移行支援事業所 Small Steps「なゆた」
関西青少年サナトリウム 地域リハビリテーション部長 馬場 麻里子氏
就労移行支援事業所 Small Steps「なゆた」 就労支援員 宮本 紗綾氏
Small Steps「なゆた」での訓練を経て企業で働く当事者 けんたろう氏

- 情報提供 「SPIS」の全国普及状況と運用状況
NPO法人全国精神保健職親会 主任コンサルタント 三原 卓司氏

〈第2回研修会〉就労支援システム「SPIS」セミナー(基礎編)…… P 7

- 講義 なぜ「SPIS」は就労支援に役立つのか
一般社団法人SPIS研究所 所長 橋倉 正氏
- 「SPIS」操作実習「SPIS」を通じて当事者をどのように理解するか
「SPIS」のなかで当事者とどのように関係をつくるか
一般社団法人SPIS研究所 所長 橋倉 正氏
NPO法人全国精神保健職親会 主任コンサルタント 三原 卓司氏

報告

1

令和2年度兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会(職親会)総会報告

令和2年度の総会は新型コロナウイルス緊急事態宣言を受けて通常開催を断念しました。7月10日期限にて書面表決を行い、令和元年度の事業・決算報告、令和2年度の事業・予算計画について承認を受けました。

●令和元年度事業報告

事業名	年 月 日	場 所	内 容
(1) 職親会研 修会等の 開催	H31. 4.16(火)	精神保健福祉センター	○第1回兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会役員会 参加者12名 【議事】 ・平成30年度事業報告・決算報告 ・平成31年度事業計画(案)・予算(案) ・平成31年度総会・講演会について
	R元. 7. 6(土)	兵庫県こころのケアセンター	○令和元年度兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会総会 参加者16名 ・平成30年度事業報告及び決算報告 ・令和元年度事業計画(案)・予算(案) ○兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会講演会 (地域研修会として) 参加者90名 ・講演会 「リカバリーを目指した就労支援」 ～IPS援助付き雇用の実践～ 社会福祉法人桜ヶ丘社会事業協会 桜ヶ丘記念病院 中原 さとみ氏 ・体験談 「働くこととリカバリー」 リカバリーキャラバン隊 中村 孝氏 リカバリーキャラバン隊 堀川 正志氏
	R2.1.10(金)	精神保健福祉センター	○第2回兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会役員会 参加者11名 【議事】 ・令和元年度事業について ・令和2年度事業について ・その他
	R2.2.19(水)	中央労働センター	○兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会地域研修会 参加者104名 「精神科病院における就労支援について」 ～デイケアを活用した就労準備～ ・取組報告 医療法人実風会 新生病院 作業療法科 科長 豊原 真紀氏 ひょうごこころの医療センター 地域ケア部 デイケア科 中矢 美幸氏 デイケア利用者 坪井 雅人氏 ・助言 神戸大学大学院保健学研究科 橋本 健志氏

(2) 機 関 紙 「ひょうご 職 親 会 だより」 の 発 行	R元.10 R2.3		・ひょうご職親会だより 第43号 2,000部 ・ひょうご職親会だより 第44号 2,000部 いずれも職親会会員・賛助会員、健康福祉事務所、 ハローワーク、社会福祉協議会等約450箇所に配布
(3) (1)及び (2)のため、全国 研究会などへの役員・会員の派遣	R元.5.28(水)	クリスタルタワー	R元年度神戸・三田地域障害者雇用連絡会議・R元年度第1回 神戸地域障害者雇用・就労支援ネットワーク会議 (事務局出席)
	R元.6.19(水)	中央労働センター	R元年度第1回兵庫県障害者雇用・就労支援ネットワーク会議 (事務局出席)
	R元.10.29(火)	JSN大阪事務所	全国精神保健職親会臨時会議 (野村会長出席)

令和元年度 決算報告

(収入の部)

(単位：円)

区 分	項 目	決 算 額	摘 要
事業収入		578,000	
	会費収入	23,000	7口
	賛助会費収入(団体)	43,000	15口
	賛助会費収入(個人)	12,000	12口
	委託費	500,000	兵庫県
事業外収入	雑収入	3	預金利息等
繰越金	前年度繰越金	388,332	
計	(A)	966,335	

(支出の部)

(単位：円)

区 分	項 目	決 算 額	摘 要
事業費		445,040	
	普及啓発費	116,380	たより発行2,000部(たより第43号)
		89,980	たより発行2,000部(たより第44号)
	講演会費	223,980	講師謝金、旅費、会場使用料等
	研修会費	14,700	研修会参加費、旅費
運営費		168,671	
	役員会費	12,480	旅費
	総会費	0	
	事務費	156,191	郵送費(たより、研修案内等)等
	需用費	0	
分担金	分担金	20,150	全国精神障害者就労支援事業所連合会団体会費
計	(B)	633,861	
繰越金	次年度繰越金	332,474	次年度に繰越(A)-(B)
計		966,335	

令和2年度 事業計画

- 1 定期総会及び講演会の開催
- 2 地域研修会の開催
- 3 『ひょうご職親会だより』の発行
(年2回)
- 4 会員の拡充
- 5 NPO法人全国精神保健職親会への参加
- 6 関係機関との連携・協力
- 7 役員会の開催

当会の活動費は、会費・賛助会費、県委託費等によって賄われています。

令和元年度は収入578,003円に対し、支出は633,861円でした。

主な支出は講演会・研修会の開催、機関誌「職親会だより」の発行などでした。

令和年度は、事業収入を534,000円、事業外収入を5円と見積もり、それに令和元年度繰越金332,474円を加え、866,479円の予算となっています。

報告 2-1

第1回研修会(入門編)

講演 就労支援ツール「SPIS」とは、どんなシステムか
事例報告 「SPIS」を活用した就労定着支援への取り組み
情報提供 「SPIS」の全国普及状況と運用状況

「SPIS」は supporting people to improve stability の略で直訳すれば「人々の日々の安定を改善するための支援をする」ということになります。

新型コロナウイルス感染症がもたらした新しい生活、オンライン元年となった令和2年度の研修会は、NPO法人全国精神保健職親会がサービス提供を行っている就労定着支援の新しいツール「SPIS」について(入門編)(基礎編)を学びました。

講演 「就労支援ツールSPISとはどんなシステムか」



橋倉氏

SPISの主な3つの特徴

- WEB上のクラウドサービスを利用した時間・場所を問わないアクセス
いつでも、どこでも入力した見たりが可能！
- 日々行われる三者によるコミュニケーション
職場では伝えられなかった思いをやり取りできる
- 利用者の状態が日報やグラフで見える化
状態の移り変わりを共有、理解しやすい

Copyright © SPIS Institute All Rights Reserved



SPISは、就労を継続するために当事者と支援者双方の苦労を繋ぐ「対話」の必要性から生まれたWeb日報システムです。その日の気温や気圧、服薬状況や睡眠時間の記録、当事者が選んだ項目を4点法で評価してSPIS上に記載し、職場支援者、外部支援者(事業所・SPIS相談員等)がそれぞれコメントを記載します。当事者は体調や気分を徐々に自覚できるようになり、職場支援者は

当事者の不調の兆しに気付くコツを当事者から学びます。外部支援者は、SPISを用いた具体的な支援ノウハウを提供します。項目毎の相関関係が分かるので診療等にも活用出来ます。

SPIS活用の基本的なフロー

Step1. 初回面談（評価項目設定）

- 本人が安定して働くために必要な自主管理項目
 - ・ 症状・課題はみな違う！「睡眠」「疲労」「体調」「集中力」etc.
 - ・ 人事考課・査定のためのものではない
 - ・ 3～7項目くらいが扱いやすい（もっと少ない人、もっと多い人もいる）
- 項目名が本人にじっくりくるものである事が重要
 - ・ 同じ「睡眠」でも「寝つきが悪い」「熟睡感」「中途覚醒がある」など
 - ・ 項目の追加・変更は随時可能

標準化より個別化を志向
セルフチェック項目の選択、さらにその表現方法は人それぞれ

Copyright©SPIS Institute All Rights Reserved.

SPISはいつでもどこでもアクセス出来るオンラインツールなので、データベースの検索も簡単で問題傾向も把握し易く、職場で生じた問題が深刻になる前に支援者の介入が可能となります。また当事者と各支援者が対面して問題の検討をする「リアルSPIS」も月一回程度実施し、直接言葉を交わす機会も大切にします。

中には「管理に抵抗がある」「書き込みすぎて負担」等、SPIS導入に乗らない人もいますが、見守りや理解を得てリアルな対人場面でも相談しやすくなる人もいます。SPIS導入後、職場支援者からは「当事者の理解が進んだ」、当事者からは「自分の状態が分かるようになった」「安心して働き続けられる」等の評価が得られ、孤立しがちな当事者を支えながら、外部支援者の理解も深まり、職場支援者の孤軍奮闘をも支えていると感じています。コミュニケーションが苦手な当事者にとって、「発信し易く」「自己理解や相互理解が深まる」ツールとして、今後もさらにSPISの改善を重ねていきたいと思ひます。

さまざまなSPISの導入パターン

Copyright©SPIS Institute All Rights Reserved.

これまでの評価

「SPIS（エスピス）」を利用した方の感想を一部抜粋しました。

	職場の人	利用者（本人）	外部支援者
自己評価項目のチェックについて	- どんな業務をどれ位するとか、どんな症状が現れるのか、一目瞭然になるのととても便利です。 - 文章表現が苦手な人でも項目のチェックはできるので、状況把握ができて安心です。	- 自分の体調や生活リズムについて、日々考えることができるようになりました。 - 自分のウィークポイントを認識して、意識して改善することができました。	- 毎日顔を合わさなくても、その人の状態の変化に気づくことができます。 - 睡眠や食事の状況がわかることが支援の参考になっています。
自由記載のコメント欄について	- コミュニケーションが取れていないつもりでも、コメント欄の書き込みで初めて知ることがあります。 - 不調の萌芽を察んで、業務の調整ができています。	- 日々のコメント記入が心のけり口になり、ストレスの分散になります。 - 口に出して言えない気持ちや苦しさを知ってもらえます。	本人だけでなく職場の人からのコメントもあるので、本人の状況をより客観的に理解することができます。

職場内の配慮（ラインケア） ↔ セルフケア ↔ 外部連携

Copyright©SPIS Institute All Rights Reserved.

事例報告 「SPISを活用した就労定着支援への取り組み」

医療法人社団東峰会就労移行事業所 Small Steps において、約2年前に始まったSPISトライアル導入について報告して頂きました。



けんたろう：私には、ADHDと自閉症スペクトラムの傾向があります。焦りや不安で計画的に物事を進めるのが苦手。対人関係で苦労することも多く何回か転職経験もあります。休職後の復職が難しくて煮詰まっていた時にSPISに出会いました。SPISを用いて転職し約1年就労が続いています。「チームけんたろう」は、事業所支援者2名とSPIS相談員2名と自分で構成されています。職場の担当者にSPISを使っていることは伝えていますがチームには参加していません。

馬場：けんたろうさんは真面目で几帳面なので状況説明に長時間を費やす為、肝心の相談に時間が足りません。SPISが状況整理と自己理解の助けになればと思い導入を勧めました。毎日のやり取りを通じて、けんたろうさんの生き辛さが支援者である私のところに沁みて来て、返す言葉も変わりました。SPISを介してお互いの信頼関係も育つと実感しています。



馬場氏



けんたろう：SPISに毎日書き込みながら状況と気持ちを整理していると、徐々に支援者に言葉でSOSを伝えられるようになってきました。

三原：「バグる」という評価項目、「行って帰ってよし」というスローガンが、「チームけんたろう」の合い言葉になっています。ところで最近「バグって」る？

けんたろう：仕事が同時に入って優先順位が決められず焦るばかりで何も進まないのが「バ

グる」状況。最近はその前に職場の上司に相談し、どれから手を付けたら良いか決めて貰うので、「バグる」事を回避出来ています。仕事でも家でも、相談にはタイミングと簡潔さが大切だと実感しています。SPISの記載は「報・連・相」の訓練になっています。

フロアからの質問：SPISは、いつどこで記載しているのですか？職場で記載するのですか？

けんたろう：SPISはスマホで使用しています。工作中は書かないしコメントも見ません。

橋倉：「苦労が沁みしてくる」と、頭で理解するのとは違って真の意味で当事者のニーズに沿った支援に近付くことが出来ます。ここでチーム全員が揃って報告して頂いたことが本当に素晴らしいと感じました。

情報提供 「SPISの全国普及状況と運用状況」

SPISは2012年から開発を開始し、実証・試用を重ねて来ました。助成金や補助金に頼らず自主財源を確保し、支援する側の育成にも努めています。メンタル不調やリワーク、新入社員の定着、医療機関などにも導入されつつあります。SPISは、当事者の自己理解を進め、自己肯定感や自己効力感、レジリエンスを高めます。支援者は当事者理解を深めてマネジメントスキルを身に付け、誰にとっても働きやすい職場環境育成の一助となります。



三原氏

導入をお考えの事業所様は是非お問い合わせ下さい。

問い合わせ先 NPO法人全国精神保健職親会

所在地 大阪市淀川区西中島5-3-4 新大阪高光ビル801 (JSN地域・企業連携事業部内)

TEL (06) 6307-1616 メール info@vfoster.org

報告
2-2

第2回研修会（基礎編）

講義

SPIS操作実習

「なぜSPISは就労支援に役立つのか」

SPISを通じて当事者をどのように理解するか

SPISの中で当事者とどのような関係をつくるか

講義 「なぜSPIS就労支援に役立つのか」

セルフチェック項目の設定

設定の進行は基本的にSPIS相談員（外部支援者）が行う

◆ 本人が安定して働くために必要な自主管理項目

- ・ 症状・課題はみな違う：「睡眠」「疲労」「体調」「集中力」etc
- ・ 人事考課・査定のためのものではない
- ・ 3～7項目くらいが扱いやすい（もっと少ない人、もっと多い人もいる）

◆ 項目名が本人にじっくりくるものである事が重要

- ・ 同じ「睡眠」でも「寝つきが悪い」「熟睡感」「中途覚醒がある」など
- ・ 当事者本人の感覚を大切にする

- 当事者から項目が出てこない場合は、やり取りの中から困り感をくみ取って提案することも必要

©2020 SPIS Institute All Rights Reserved

SPISの評価項目を選ぶ時、当事者の選択を尊重し追加や変更は随時可能とします。ネットSPIS（書き言葉）とリアルSPIS（話し言葉）双方から、当事者の変化に注目し続けます。支援者には ①カウンセリングマインド（寄り添う姿勢、安心感の提供）のみならず ②コーチングマインド（自己肯定感の育成、成長・前進の支援）が必要です。共感だけ指導だけでなく傾聴しフィードバックし、共に課題を検討する事が大切です。

事例を一つ。音に過敏な当事者の隣に独語活発な同僚がいてイライラが爆発しそうな時、SPIS上で早期に問題状況を知るところなり、席替えをして事なきを得ました。日常的なストレス反応をSPIS上で読み取って早期に介入することで当事者を守り支援者も傷つかず、職場環境の安心保持も可能となった良い例です。

SPIS操作実習 SPISを通じて当事者をどのように理解するか SPISの中で当事者とどのような関係をつくるか



当事者と支援者双方の立場でSPISの操作実習をしました。SPISから当事者の状態像を読み取る演習や、そこで気付いた不調への向き合い方について学びました。

支援に当たる際、当事者の「生き辛さ」のみならず「強さ（ストレンクス）」に気付くことも大切です。支援者は当事者の気持ちや考えに沿った温かいコメントを心がけ、SPIS上で伝え辛いことはコメントを急がず、リアルSPISの場で話し合います。

ネットSPIS・リアルSPIS双方を通じて、当事者が働く場の「安心」や仲間との「信頼」を育むことが大切です。支援者のコメントは「I（アイ）メッセージ」を意識します。支援者が費やす時間は1日数分（月1時間）程度ですが、問題が起こってからの対処に係る時間と労力に比べるとエネルギーを大幅に削減できます。

関係づくりのツボ①（リアルSPIS）

- ◆ まずは当事者の気持ちや考えをに耳を傾ける（傾聴）
- ◆ 日々のSPISから感じ取った当事者の気持ち（困り感など）や出てきていることをフィードバックする
- ◆ 当事者が困っていることや悩んでいることがあれば、本人任せせず、SPISのチームで一緒に考える



©2021 SPIS Institute All Rights Reserved

関係づくりのツボ②（コメントの返信）

- ◆ できるだけ温かいコメントを心掛けたい
- ◆ 理解した（受け止めた）ことをコメントで伝える
- ◆ 当事者のコメントのなかで触れづらい部分やSPIS上で伝えづらいことは、無理にコメントせずに、顔を合わせた際にやり取りする
- ◆ 業務指示や改善点の伝達はできるだけSPISではなく直接伝える
⇒ むしろそのフォローをSPIS上で
- ◆ アイ・メッセージが当事者に響く。「私は～」



©2021 SPIS Institute All Rights Reserved

まとめ

今年度は、就労継続支援に役立つ「SPIS」について入門編・基礎編とシリーズで学びました。「SPIS」は就労支援のみならず、医療や福祉、教育等様々な場で人々の生活の安定や環境の成熟を助けるツールです。当事者にはそれぞれの特徴と独自のニーズがありますが、支援者は手慣れた手段や関わり方に囚われ、結果的に就労継続が行き詰まる事があります。私たち支援者に求められるのは、当事者から学ぶ姿勢と柔軟な発想だと改めて気付きました。

今回、デジタルツール「SPIS」の活用で、当事者に安心して働ける自信が育ち、職場環境も変化する事実を知って、支援する側の多様性を模索する時代の到来を感じました。

☆兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会（職親会）会員及び賛助会員 募集中☆

お問い合わせは下記事務局までお願いします。

【年会費】

会 員（社適登録事業所）3,000円

賛助会員（団体）3,000円 ・ 賛助会員（個人）1,000円

【事務局】 兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会（職親会）

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2（兵庫県精神保健福祉センター内）

Tel 078-252-4980 / Fax 078-252-4981